

中期目標の達成状況に関する評価結果

宮城教育大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	13

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

宮城教育大学は「教員養成教育に責任を負う」大学として、教員養成教育と現職教育を両輪とする地域に密着した教育を行うことを目標とし、教育研究に取り組んできた。第二期中期目標期間においては、第一期中期目標期間の達成成果及び業務実績に関する評価結果を踏まえ、教員養成に一本化した専門性の高い単科教育大学として、教育の未来と子どもたちの未来のために、その社会的責任を果たすべく、一層の工夫と努力を加え、教員養成教育の分野で真に価値ある大学を目指して、教育研究の充実に努めることを基本的な目標とする。

そのために、(1)教育面においては、学部・大学院の各課程の教育目的に即して、(a)学士課程においては、幼児教育、初等・中等教育及び特別支援教育の学校に有為な教員を送り出すことを目的とし、併せて広義の教育分野における人材の養成に当たる。(b)修士課程においては、高度の専門性を求め、教育を学問として探求・実践し、より優れた教員として活躍できる人材の育成を行う。(c)専門職学位課程（教職大学院）においては、教職としての高度の専門性と実践力を養い、教育の現場において真にリーダーとなり得る人材の養成を行うことを目指す。

それぞれの課程において、教育者としての使命感を持ち、広い視野や高度の専門性、実践的な教育能力・指導力を具えた、個性豊かな教員の養成に全力を注ぐ。そのために必要な教育の一層の充実と改善を、自己点検・評価やFDを通じて積極的に推進し、教育の質保証をより確かなものにする。さらに、学力・教育能力のみならず、“豊かな人間力”を培うことを今期の重点目標とする。

(2)研究面においては、各教員がそれぞれの専門分野の研究レベルを深化・向上させつつ、「教員養成マインド」に基づき教師教育へと活用・集約していくこと、さらに教育現場や社会との往還の中で、教育現場が求める今日的な課題や現職教員が抱える実践的な課題に取り組む臨床的・実践的な研究に取り組むことを目標とする。

(3)社会との連携の面では、連携協力協定を締結している各自治体・教育委員会等と連携し、現職教員の資質向上に寄与するとともに、教育現場に生起する困難な諸課題の解決に共同で当たること、さらに国際理解教育や国際教育協力の活動に協力・連携して取り組むことを目標とする。

- 1 宮城教育大学は、昭和40年に東北大学教育学部から分離独立して設立された東北地区唯一の単科の教育大学である。創設以来、「教員養成教育に責任を負う」大学として、教員養成教育の分野で真に価値ある大学を目指して、教育・研究および社会との連携に真摯に取り組んできている。
- 2 基本的な目標を達成するために、教員養成教育と現職教育を両輪としながら、「理論と実践との往還・融合」を基本とし、「教育における臨床の学」を希求し続けることによって、地域の教育現場がかかえる課題の解決に寄与することを通じて、地域に密着した教員養成系大学のモデルを構築しようと努力を積み重ねている。
- 3 教員養成に一本化した専門性の高い単科教育大学として、幼児教育・初等教育・中等教育・特別支援教育の教育現場に、高度専門職業人としての優れた資質・能力を持った有為な教員を数多く送り出すことによって、その社会的責任を果たすとともに、東北地

区唯一の単科の教員養成系大学として、広域拠点型大学としての機能を十分に発揮すべく一層の工夫と努力を加えている。

- 4 各教員がそれぞれの専門分野の研究レベルを深化・向上させつつ、「教員養成マインド」に基づき、それらの成果を教育現場に還元していくための臨床的・実践的な研究に取り組むことによって、教師教育へと活用・集約していくことをめざした研究活動を重視している。
- 5 連携協定を締結している宮城県内の各自治体・教育委員会等と連携し、「生涯にわたって自ら学び続け、その質的向上を目指す現職教員」の資質向上に寄与するとともに、教育現場に生起する困難な諸課題の解決に共同で当たることを通して、社会との連携にも積極的に取り組んでいる。
- 6 教育現場において確かな力量を発揮し得る人材を養成し、社会の変化や教育現場、学術研究の発展等に即応した先導的な教育を実施するために、環境教育実践研究センター、国際理解教育研究センターに加えて、教育臨床研究センターや特別支援教育総合研究センター、小学校英語教育研究センターなどを設置し、附属の研究センターの充実に努めている。

[個性の伸長に向けた取組]

上述した通り、第2期中期目標における「大学の基本的な目標」の中で、本学は「教員養成教育に責任を負う」大学を標榜し、「教員養成に一本化した専門性の高い単科教育大学」として、「教員養成教育の分野で真に価値ある大学を目指して、教育研究の充実に努めることを基本的な目標とする」と述べている。第1期中期目標期間においては、教育学部における課程改革、大学院における専門職学位課程（教職大学院）の新設およびそれに伴う修士課程の改組を通して、基本的な目標の実現に向けて主に教育実施体制の確立に取り組んだ。それを受けて、第2期中期目標期間においては、教育学部および大学院教育学研究科のいずれにおいても、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの策定・改定を通して、基本的な目標の実現に向けての方向性を明示する取り組みを行った。平成28年度から始まる第3期中期目標期間においては、これまでの取り組みをさらに発展させるために、基本的な目標を実質化させる取り組みを行っていききたいと考えている。

（関連する中期計画）計画1-1-1-1、計画1-1-6-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

本学は被災地で唯一の教員養成大学として、震災直後に教育復興支援センターを設置し、全力で被災地の教育復興に取り組んできた。当センターでは、全国の大学からボランティア学生を募り、本学学生とともにボランティアとして派遣し、被災地のニーズにきめ細やかな対応をしてきた。また、今後の減災・防災教育に生かすため学校の膨大な被災記録を収集した。取り組みの成果の一端は、仙台で開催された第3回国連防災世界会議での公式フォーラムの開催を通じて国内外の防災教育関係者にも発信したり、市民向けの連続講座を開催したりするなどして、積極的に地域に向けて発信してきている。こうした取り組みによって蓄積された成果は、学部及び教職大学院の授業にも反映され、本学における防災・復興教育学の体系化に活かされている。さらに、本センターは、平成28年度に防災教育未来づくり総合研究センターへと発展改組され、更なる支援活動および研究・教育活動の充実が期待されている。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、宮城教育大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	9	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	3	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			1	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	良好		1		
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
③ 国際化に関する目標	おおむね良好			1	
④ 附属図書館・センター等に関する目標	おおむね良好			2	

＜主な特記すべき点＞

注目すべき取組

- ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）において、持続可能な開発のための教育（ESD）やユネスコ・スクール研修会を中心とした事業を各地で実施しており、平成 24 年度以降、ユネスコスクール東北大会やユネスコスクール宮城県大会を継続的に開催している。また、ASPUnivNet アジア・太平洋地域における学校間交流の主幹大学として RICE プロジェクトを推進している。さらに、平成 26 年度の東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材の育成と ESD 地域モデルの創出事業の採択により、東日本大震災の経験を踏まえた防災面での地域の課題に関する ESD 活動等に取り組んでいる。（中期計画 3-3-1-3）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 宮城教育大学は被災地で唯一の教員養成大学として、震災直後に教育復興支援センターを設置し、全力で被災地の教育復興に取り組んできた。当センターでは、全国の大学からボランティア学生を募り、宮城教育大学学生とともにボランティアとして派遣し、被災地のニーズにきめ細やかな対応をしてきた。また、今後の減災・防災教育に生かすため学校の膨大な被災記録を収集した。取り組みの成果の一端は、仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議での公式フォーラムの開催を通じて国内外の防災教育関係者にも発信したり、市民向けの連続講座を開催したりするなどして、積極的に地域に向けて発信してきている。こうした取り組みによって蓄積された成果は、学部及び教職大学院の授業にも反映され、宮城教育大学における防災・復興教育学の体系化に活かされている。さらに、本センターは、平成 28 年度に防災教育未来づくり総合研究センターへと発展改組され、更なる支援活動および研究・教育活動の充実が期待されている。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(10項目)のうち、1項目が「良好」、9項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○教育支援ボランティア活動の推進

中期目標(小項目)「「人間力」の養成:上記教育課程に基づく優れた資質能力と併せて、さらに教員として必要なキャリア意識・能力及び生き生きとした主体性や豊かな人間力を養うために、全学的に「人間力教育」「キャリア教育」の充実を図る。」について、ディプロマ・ポリシーの柱の一つである、強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間力を具えた教師、の方針を実現するため、ボランティア活動等の学内外における課外活動の充実に向けた支援体制を整備している。これらにより、教育支援ボランティア活動として、長期休業期間や土日を利用して被災地に学生を派遣し補習授業を実施する教育復興支援塾事業へ参加した学生数は、平成24年度から平成27年度において、延べ2,214名となっている。

(中期計画 1-1-4-1)

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○特別支援教育マインドの育成

中期目標(小項目)「特別な支援を要する学生に対して、大学としての支援体制を一層充実させ、健常者とともに学び得る人的・物的環境整備を全学的に進める。」について、すべての学生に特別支援教育マインドを育むという理念の下、「しょうがい学生支援室」を設けており、第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)も『しょうがい学生支援の基礎知識』の冊子を配布するなど、教職員や支援学生の啓発を行っている。また、特別な配慮が必要な幼児・児童・生徒に対する支援に向けての教育活動を、附属特別支援学校を中心に、教育実習や介護等体験等を通して実施している。(中期計画 1-3-4-1)

(特色ある点)

○就職サポート体制の整備

中期目標(小項目)「大学としての就職戦略を構築する体制を整備し、就職指導及び就職支援の強化を図る。」について、学部卒業生及び大学院修了生の中で教職に就いた者等を対象に学校訪問調査を継続的に実施している。その検証結果を教員採用試験に向けた受験指導や、平成27年度の学校勤務のためのオリエンテーション講座をはじめとする、教員採用試験合格者を対象とするフォローアップ講座に反映するなど、就職に関するサポート体制を整備している。

(中期計画 1-3-3-2)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○研究成果の社会への還元

中期目標(小項目)「地域や日本の教育の質的向上に資するような、国立の教員養成大学の特性を活かした研究の水準を維持・向上させ、その成果を教育活動に反映させると同時に、地域社会との連携を図りつつ、研究の開発と充実に取り組む。」について、教室における ICT 環境を充実するため、タブレット型端末を利用することで、テレビを電子黒板以上の機能にできるアプリケーションを開発し、教科指導における宮城県の ICT 活用の標準アプリとして宮城県に公式に認定されている。また、国際的にも利用が広がっており、国内外で2万件近くダウンロードされている。さらに、今日的な問題である体罰に関する研究成果は、教員免許状更新講習を通して現職教員に共有し、その資質向上に寄与するとともに、神奈川県教育委員会刊行の『体罰防止ガイドライン』の中で紹介されるなど、国内外に向けて研究成果の還元を図っている。(中期計画 2-1-1-2)

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○自治体と連携した教員の資質向上を図る取組

中期目標(小項目)「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成25年度に文部科学省の知(地)の拠点整備事業(大学COC事業)の採択により、宮城県及び仙台市教育委員会と生涯学び続け深化する教員の育成(イノベティブ・ティーチャー養成)に関して協議する組織を構築するとともに、教員の養成と現職教員の研修の一体化を図るため、イノベティブ・ティーチャー養成・育成マップ等を作成している。また平成26年度から平成27年度に、ICT技術の授業における活用を進める中で、教員の資質向上を図る取組をモデル校において実施している。さらに、大学教員や学生、宮城県内の現職教員が授業・研修等の映像記録である教育情報を交換できるCloud for Innovative Teaching(CIT)システムを構築している。(中期計画3-1-1-1)

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○他大学との連携による復興支援

中期目標(小項目)「東北で唯一の単科教育大学として、地域の教育委員会や自治体等との教育に関する連携・協力体制を充実・発展させるとともに、大学の教育研究の成果を地域の教育界に還元し、地域の教育の振興と発展に貢献する。」について、平成23年度に教育復興支援センターを設置し、宮城県や仙台市教育委員会等との連携の下、被災地の学校における支援ニーズの調査を行い、全国の大学と連携し、学習支援や教員補助等の学生ボランティア活動を行っている。また、山形大学、福島大学と連携し、南東北大学連携研究会を設置し、『災害復興学テキスト』の作成や、各大学主催の災害復興学市民講座、南東北3大学連携シンポジウム等を実施している。(中期計画3-2-1-1)

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○国境を越えた持続発展教育の学びの推進

中期目標(小項目)「学術交流協定を締結している海外の大学等との間で、短期・長期の留学生交換を進める。また教育大学として本学がもつ教育研究のポテンシャルティを活かして開発途上国への教育協力を推進する。さらに地域の自治体・教育委員会及び学校等の国際交流活動や国際理解教育活動に協力し、支援する。」について、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)において、持続可能な開発のための教育(ESD)やユネスコ・スクール研修会を中心とした事業を各地で実施しており、平成24年度以降、ユネスコスクール東北大会

やユネスコスクール宮城県大会を継続的に開催している。また、ASPUivNet アジア・太平洋地域における学校間交流の主幹大学として RICE プロジェクトを推進している。さらに、平成 26 年度の東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材の育成と ESD 地域モデルの創出事業の採択により、東日本大震災の経験を踏まえた防災面での地域の課題に関する ESD 活動等に取り組んでいる。（中期計画 3-3-1-3）

（４）附属図書館・センター等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「附属図書館・センター等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○特別支援教育等に関する情報提供や指導

中期目標（小項目）「環境教育実践研究センター・教育臨床研究センター・特別支援教育総合研究センター・国際理解教育研究センターは、相互に協力連携しながら、教育大学の附属研究センターとしての特徴を活かした、独自の教育研究と情報の収集・発信を行い、地域社会の教育の発展に積極的に貢献する。」について、第 2 期中期目標期間において開催した 5 回の特別支援教育フォーラム等により、特別支援教育等に関する情報提供・研修機会の提供に取り組んでいる。また仙台市教育委員会の学校生活支援巡回相談事業に協力し、ADHD・発達障害児等への対応に関する学校現場支援や、学校コンサルテーション活動を実施することにより、学校に対する指導及び支援を行っている。（中期計画 3-4-2-8）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
学士課程 学士課程においては、幼児教育・初等教育・中等教育・特別支援教育の各学校に、優れた資質・能力を持った有為な教員を送り出すことを目的とし、併せて広義の教育分野における人材の養成に当たることを目標とする。		おおむね良好	
1-1-1-1	学士課程 教員養成教育に関する具体的目標の設定 教員養成教育という本学のミッションに基づき、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを明確にし、またアドミッション・ポリシーを改定して、教育の目標をより具体的に明示する。あわせてその実効性について広く学外からの意見を取り入れながら逐次、検証する。	おおむね良好	
教育課程 ：豊かな教養に基づく均衡のとれた深い人間観・世界観を養い、併せて教員の職務から必然的に求められる資質能力、地球的視野に立って判断し行動するための資質能力、及び変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力を有し、優れた専門性を有する個性豊かな教員を養成するための教育課程を構築する。		おおむね良好	
1-1-2-1	教育理念等に応じた教育課程を構築するための具体的方策 カリキュラムを検討して、精選・高度化を図る。教育の目標とカリキュラムの全体像を明確にし、改めて全学的な合意形成を図ることによって、教員相互の間で役割分担を明確にし、授業が総体として有機的に行われるような、構造化されたカリキュラム運営を目指す。	おおむね良好	
入学者受入れ ：教育職への強い熱意を持ち、かつ本学の教育課程のもとで教育を受けるにふさわしい優れた基礎学力を有する者を受入れる。		おおむね良好	
1-1-3-1	入学者受入れの方針に応じた入学者選抜を実現するための具体的方策 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体化した広報活動を行うとともに、選抜方法の検討を進める。	おおむね良好	
「人間力」の養成 ：上記教育課程に基づく優れた資質能力と併せて、さらに教員として必要なキャリア意識・能力及び生き生きとした主体性や豊かな人間力を養うために、全学的に「人間力教育」「キャリア教育」の充実を図る。		良好	
1-1-4-1	「人間力教育」「キャリア教育」の充実 を図るための具体的方策 正課の授業、課外活動、ボランティア活動などあらゆる場面で、学生が生き生きと主体的に行動し、自ら課題を見つけ解決できる能力、またコミュニケーション能力、リーダーシップなど、教員として必要な豊かな「人間力」を身に付けられるよう、総合的な教育体制・支援体制を構築する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	教育方法及び授業改善：優れた教員を養成するにふさわしい実践的・具体的な授業形態と学習指導法を工夫し、また教育の質のさらなる向上を目指して授業改善に取り組むことによって、学士力の質保証を図る。	おおむね良好	
1-1-5-1	教育方法、授業改善及び成績評価に関する具体的方策 「教員養成教育」の特性に配慮した「教育の質の向上」に努めるため、大学として常に自己点検・評価し、全学挙げてFDを推進しつつ、授業内容や教育方法の改善を図る。CAP制やGPA制の機能を十全に活かしつつ、成績評価・卒業認定をより厳密化し、公正・適切に行うことによって、学士力の質保証を図る。	おおむね良好	
	大学院課程 専門職学位課程（教職大学院）は、学校現場及び地域の教育に実践的応用力をもって中核的・指導的役割を果たすスクールリーダーとしての力量と、優れた専門的職業能力を備えた人材の育成を目標とする。 修士課程は、高度の専門性を求め、教育を学問として深く探求・実践し、より優れた教員として活躍できる人材の育成を目標とする。	おおむね良好	
1-1-6-1	大学院課程 大学院教育における具体的目標の設定 専門職学位課程（教職大学院）及び修士課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを明確にし、またアドミッション・ポリシーを改定して、教育の目標をより具体的に明示する。あわせてその実効性について広く学外からの意見を取り入れながら逐次、検証する。	おおむね良好	
	専門職学位課程（教職大学院）と修士課程それぞれの位置づけと役割の明確化を図り、大学院教育の全体的な充実・発展を目指す。	おおむね良好	
1-1-7-1	大学院教育の充実発展を図るための具体的方策 大学と教育現場との連携・往還の中で、専門職学位課程（教職大学院）及び修士課程の果たすべきそれぞれの役割を再検討して、その位置づけを明確にし、大学院教育の全体的な充実・発展を目指す。また、特別支援教育分野の博士課程設置の可能性について検討する。	おおむね良好	
	教育課程及び教育体制：専門職学位課程（教職大学院）及び修士課程において、それぞれの位置づけと役割にふさわしいカリキュラムを再検討し、それに基づいて教育体制の一層の充実を図る。	おおむね良好	
1-1-8-1	教育課程及び教育体制の充実を図るための具体的方策 専門職学位課程（教職大学院）及び修士課程において、それぞれカリキュラムを検討・改定して、精選・高度化を図る。	おおむね良好	
1-1-8-2	専門職学位課程（教職大学院）においては、教員のチーム・ティーチングによる教育体制の充実、及び連携協力校との連携の一層の充実を図る。	おおむね良好	
1-1-8-3	修士課程においては、教育実践への参与や観察を重視し、担当教員の指導のもとに、教育活動をより深く探求する教育研究体制の充実を図る。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
入学者受入れ：学校教育の現場、一般社会からの要請に応え、教育の質をさらに向上させ、教育現場を活性化するために、本学大学院で学ぶ意欲をもつ学生及び現職教員を中心とした社会人を積極的に受入れる。		おおむね良好	
1-1-9-1	入学者受入れの方針に応じた入学者選抜を実現するための具体的方策 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体化した広報活動を行うとともに、選抜方法の検討を進める。	おおむね良好	
教育方法及び授業改善：専修免許状取得にふさわしい教員として優れた資質能力を身に付けさせるために、教育方法の充実・改善を図り、授業改善に取り組むことによって、教育の質の更なる向上を目指し、大学院における教育の質保証を図る。		おおむね良好	
1-1-10-1	教育方法の充実・改善、授業改善及び教育の質保証を図るための具体的方策 専修免許状取得にふさわしい教員として、専門分野の研究を深め、実践的指導力を身に付けさせるために、教育現場の現状や課題に即応した具体的・実践的な教育を、ICT等も活用しながら、少人数教育・個別指導により行う。	おおむね良好	
1-1-10-2	大学として組織的に授業改善に取り組んでいくために、常に自己点検・評価を行ない、FDを推進する。	おおむね良好	
1-1-10-3	成績評価・修了認定をより厳密化し、公正・適切に行うことによって、大学院における教育の質保証を図る。	おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
第一期中期目標で達成した本学の実績を継承しつつ、教育現場において確かな力量を発揮し得る人材を養成し、社会の変化や教育現場の課題、学術研究の発展等に即応した先導的な教育を実施するために必要な、教育の実施体制を整え、教育環境を整備する。		おおむね良好	
1-2-1-1	教育の質の改善と充実を図るための実施体制に関する具体的方策 平成19年度教員養成課程再編の完成年度（平成22年度）卒業生の就職状況等の動向や教育現場の需要等をふまえ、入学定員等、教育の実施体制を検討する。	おおむね良好	
1-2-1-2	教育の質の改善と充実を図るために、常に教育の実施体制やカリキュラム運営を検証し、改善に導き得る体制を構築する。	おおむね良好	
1-2-1-3	教育環境の整備に関する具体的方策 教育に必要な設備、情報ネットワーク等の整備・改善を行い、それらの有効活用を図る。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学生に対する修学支援体制及び修学環境を充実させるとともに、学生が教員として必要な豊かな「人間力」を身に付けるための支援体制を体系的に整備する。		おおむね良好	
1-3-1-1	学生支援体制及び修学環境を充実するための具体的方策 修学支援体制及び修学環境の整備を図るとともに、「人間力」の養成を大学教育の重要な柱として体系化し、段階的な指導プログラムとして学生に提供する。また、学生が積極的に取組める仕組み（ポートフォリオ等）の導入を検討し、実施する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	入学から卒業・就職までのきめ細かく、かつ体系的な学生支援の整備・強化を図る。	おおむね良好	
1-3-2-1	入学から卒業までの学生支援の体系的整備を行い、学生が生き生きと活動できる環境の整備を行う。また、学生支援の実態調査・点検評価を実施し、学生支援業務の改善を行う。	おおむね良好	
	大学としての就職戦略を構築する体制を整備し、就職指導及び就職支援の強化を図る。	おおむね良好	
1-3-3-1	就職支援等に関する具体的方策 大学としての就職戦略の基本方針を立て、就職指導、就職支援の分担と協力体制を全学的に確立する。	おおむね良好	
1-3-3-2	卒業後の就職指導、就職支援等のサポート体制を確立する。	おおむね良好	特色ある点
	特別な支援を要する学生に対して、大学としての支援体制を一層充実させ、健常者とともに学び得る人的・物的環境整備を全学的に進める。	良好	
1-3-4-1	特別な支援を要する学生を支援するための具体的方策 障害学生支援室に障害学生支援の窓口を一本化し、障害学生の細かなニーズに対応できる支援体制を整備する。また、教職員・支援学生の啓発・研修を充実させるとともに支援体制の整備を行い、支援のノウハウの蓄積と普及を進める。	良好	優れた点
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		おおむね良好	
地域や日本の教育の質的向上に資するような、国立の教員養成大学の特性を活かした研究の水準を維持・向上させ、その成果を教育活動に反映させると同時に、地域社会との連携を図りつつ、研究の開発と充実に取り組む。		おおむね良好	
2-1-1-1	目指すべき研究の方向性 教員養成大学の特性を活かした教科教育、教職教育及びその基礎となる研究に取り組む。	おおむね良好	
2-1-1-2	教員養成大学として重点的に取り組む領域及び成果の社会への還元に関する具体的方策 地域の教育の向上に資するような研究に大学を挙げて積極的に取り組み、教員養成大学にふさわしい成果をあげることによって、教員養成教育や現職教育をさらに充実させ、公開講座・教員免許状更新講習・データベース等の情報発信等を通じて研究成果の社会への還元を図る。	おおむね良好	特色ある点
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
教員養成大学として取り組むべき研究教育課題を明確化し、その推進のための実施体制を構築する。		おおむね良好	
2-2-1-1	研究実施体制及び研究資金の配分に関する具体的方策 優れた資質・能力を持った有為な教員を送り出すことを目的とする教員養成大学として、その目的に適うよう、取り組むべき教育研究課題を明確化し、その推進のための講座横断型等の柔軟な実施体制・連携体制を構築するとともに、重点的な資金配分を行い、大学として組織的な研究教育の活性化を図る。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
計画番号	中期計画		
	2-2-1-2 研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策 研究の実施体制において、常に自己点検・評価を行いつつ、PDCAサイクルを確立し、研究の質の向上と充実を図る。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラムの整備及び教育組織の改革に着手し、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	良好	優れた点
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
東北で唯一の単科教育大学として、地域の教育委員会や自治体等との教育に関する連携・協力体制を充実・発展させるとともに、大学の教育研究の成果を地域の教育界に還元し、地域の教育の振興と発展に貢献する。		おおむね良好	
3-2-1-1	地域社会との連携、協力や成果の還元に関する具体的方策 宮城県内の教育委員会等との連携をさらに拡充・強化し、学校現場の最新の課題を把握し、本学の教員養成に教育現場のニーズを反映させるとともに、学校教員の研修支援等を通して教育の質の向上に貢献する。	おおむね良好	特色ある点
3-2-1-2	「高大接続」により高校生の学力や修学意欲の向上を図るため、高等学校と大学との連携を進める。	おおむね良好	
3-2-1-3	教員免許状更新講習、現職教員講座、公開講座等を充実させ、現職教員・市民等に広く教育研究の成果の還元を図る。	おおむね良好	
3-2-1-4	学都仙台コンソーシアムや仙台圏戦略的大学連携支援事業の加盟機関との連携を強化し、事業の発展を推進することで、教育研究成果の地域社会への還元を図る。	おおむね良好	
未来社会の発展と安心な地球環境の確保に努力する。		おおむね良好	
3-2-2-1	未来社会の発展と安心な地球環境の確保のための具体的方策 本学の環境教育に関わる授業及び課外活動などを通じて積極的な取組を行うとともに、持続発展教育（ESD）を推進する。	おおむね良好	
③ 国際化に関する目標		おおむね良好	
学術交流協定を締結している海外の大学等との間で、短期・長期の留学生交換を進める。また教育大学として本学がもつ教育研究のポテンシャルを活かして開発途上国への教育協力を推進する。さらに地域の自治体・教育委員会及び学校等の国際交流活動や国際理解教育活動に協力し、支援する。		おおむね良好	
3-3-1-1	国際交流や国際貢献に関する具体的方策 海外の大学や教育機関等と、学術研究、教員養成などの分野で交流を行い、連携し、本学のミッションである教員養成及び現職教育に反映させる。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
3-3-1-2	国際教育協力に積極的に参加し、教師教育及び現職教育を中心とする分野で発展途上国支援を行う。	おおむね良好	
3-3-1-3	ユネスコ・スクール・ネットワーク（ASPnet）等、グローバルな教育機関ネットワークに参画するとともに、国内の学校における国際交流、国際理解教育を支援する。	良好	特色ある点
④ 附属図書館・センター等に関する目標		おおむね良好	
附属図書館は、大学における学術情報の収集及び発信の拠点として、教育大学としての特徴を活かした教育研究及び学習の支援を行うとともに、地域への積極的な開放を図る。		おおむね良好	
3-4-1-1	附属図書館 教育、学習に必要な図書館資料の収集・充実を図る。	おおむね良好	
3-4-1-2	利用環境の整備・充実に努める。	おおむね良好	
3-4-1-3	蔵書データベースや電子ジャーナルを整備し、電子図書館的機能の充実を図る。	おおむね良好	
3-4-1-4	生涯学習社会に対応するため、地域への開放を充実する。	おおむね良好	
環境教育実践研究センター・教育臨床研究センター・特別支援教育総合研究センター・国際理解教育研究センターは、相互に協力連携しながら、教育大学の附属研究センターとしての特徴を活かした、独自の教育研究と情報の収集・発信を行い、地域社会の教育の発展に積極的に貢献する。		おおむね良好	
3-4-2-1	附属研究センター「センター長連絡会議」 「センター長連絡会議」を通じて4センターが互いに有機的な協力体制の下、連携して教育研究と社会貢献に取り組む。	おおむね良好	
3-4-2-2	環境教育実践研究センター 学部教育における環境教育指導者養成及び環境教育指導者に対する再教育を進める。	おおむね良好	
3-4-2-3	環境教育教材の開発、環境教育実践フィールドの開拓を行い、関係機関と連携して環境教育の普及を進める。	おおむね良好	
3-4-2-4	環境教育情報の電子化と公開の促進を進める。	おおむね良好	
3-4-2-5	教育臨床研究センター 授業実践研究を推進するとともに、そのため研究協力校の開発・教育委員会との連携を推進する。	おおむね良好	
3-4-2-6	教員養成カリキュラム開発、および現職教員研修プログラム開発を推進する。	おおむね良好	
3-4-2-7	その過程において膨大に蓄積されてきた教育実践資料の整備・充実とその活用を図る。	おおむね良好	
3-4-2-8	特別支援教育総合研究センター フォーラムやWeb上のデータベースなどを通じた情報提供、ワークショップ等の研修機会の提供、ITを活用したコンサルテーション、関係機関との連携事業への参画等に取り組む。	おおむね良好	特色ある点
3-4-2-9	特別支援教育に関して学内外の関係諸機関と連携して理論的・実践的研究を推進するとともに、情報の集約と電子化に努める。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点	
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	3-4-2-10	適応支援教育に関する教育及び研究の推進、適応支援に関する関係諸機関との連携の推進、及び地域社会における教育活動や心の健康活動に関する支援等に取り組む。	おおむね良好	
	3-4-2-11	国際理解教育研究センター「国際化」や「多文化化」へ対応するための学校現場や地域社会の多様な要求に応じることを目的として、言語、社会、文化的アプローチから、国際理解教育に関する基礎研究を行い、その成果を地域社会に還元する。	おおむね良好	
	3-4-2-12	学部教育などを通して、大学内における多文化教育を推進するとともに、外国人留学生に向けた各種教育プログラムを企画・推進する。	おおむね良好	
	3-4-2-13	地域の諸機関と連携をとりながら、ユネスコ・スクール・ネットワークなどを中心として、学校現場と地域社会の国際理解教育を推進する。	おおむね良好	